

**第46回（平成29年度）全国豆類経営改善共励会  
農林水産大臣賞受賞者  
概要**

**大豆集団の部**

**南沼原営農団地組合（山形県山形市）**

大豆作付面積		31.2ha			
品 種	里のほほえみ	単 収	237kg/10a	上位等級比率	87.8%
				労働時間	7.8hr/10a

**【技術改善への取組】**

- 土づくりのため、すべてのほ場に鶏ふんと土づくり資材を連年施用。地力に応じて必要な圃場には堆肥を施用。
- 排水対策のため、すべてのほ場に額縁明渠を施工、一部透水性が悪いほ場にはプラソイラを使用。湿害軽減のため耕耘同時畝立て播種技術を実施。
- 病虫害防除のための使用薬剤はJ Aや県普及課等の情報を活用し選定。作業は乗用管理機でつり下げノズルを使用。
- 高品質大豆生産のため、緩効性肥料の培土期追肥、開花期以降3回の尿素葉面散布を実施し、「しわ粒」の発生抑制を図っている。また、生育旺盛なほ場には中耕培土作業と同時に摘心を実施し倒伏防止を図り、収穫前には残草や青立ち株の抜き取りを実施し、汚損粒発生軽減を図っている。
- 種子は100%更新。
- 中耕培土と追肥、病虫害防除と尿素葉面散布等、作業を組み合わせ、作業工程の増加を防いでいる。
- 「狭畦密植栽培」等の現地実証、「一発耕起播種」「ディスク式培土機」等の実演の依頼を積極的に受け入れている。

**【経営改善への取組】**

- 若手組合員を積極的に役員へ起用し、事業計画や収支計画の策定を担わせることで、経営感覚を磨かせている。また、オペレーターも若手が中心となって担っており世代交代を見据えた運営が行われている。
- 作業性向上のため、面的なまとまりを基本として規模を拡大。併せて、畦畔の除草管理作業の削減のため、組合員の承諾を得た上で畦畔を除去。
- 生産コスト低減のため、農業機械導入にあたっては、補助事業を活用するとともに、個人所有の大型トラクターを共同利用しつつ、必要な作業機械を組合で整備。また、資材購入にあたっては、近隣の大豆生産集団と一括購入し、一般より安価に仕入れている。

**【販売・消費拡大への取組】**

- 豆腐業者や味噌加工業者からの評価が高い「里のほほえみ」を作付。大粒品種のため、粒ぞろいの不良が問題となりやすいが、追肥や尿素的葉面散布を導入し対応。
- 出荷販売はJ Aに委託。大部分が卸との契約栽培となっているが、一部を地元の味噌や豆腐の加工業者に出荷。
- 若手オペレーターが所属しているJ A青年部では、地元小学校の農業体験のため、ほ場を提供し講師を務め食育を推進している。

# 南沼原営農団地組合（山形県山形市）



耕耘同時畝立て播種の様子



除草剤散布の様子



「一発耕起播種機」実演の様子



「ディスク式培土機」実演の様子



南沼原営農団地組合のみなさん